

**熱意と覚悟 ～すべての土台～**

さっぽろがん哲学外来代表 中里 準治

さっぽろがん哲学外来三年目の昨年に参加者減少が続くというピンチを迎えました。講演会主体という活動が壁にぶつかったということですが、当初は、ならば活動の仕方を変えようと、いわゆる「企画」の練り直しをしたりしていました。

そんな中、ある人にずばりこう言われました。「あんたは形に流れている。あんたに今必要なのはそんなものじゃなく、あんたの熱意だ」「参加者が一人になってもこの活動をやる。仲間がいなくなって一人になってもやる。そういう覚悟があんたにあるか」と。

私はものの見事にわが心の弱い部分を射抜かれました。そう言われた一瞬の後、「そうか、そういうことか」と、熱意と覚悟の二つの思いはいつの間にか腑抜けてしまっていたわが腹の中にすーっと収まっていきました。確かにこの二つは自分に欠けていたと。そして改めて自分の熱意と覚悟を仲間聞いて貰い、その上で立て直しの相談を昨年末で二回ほど行いました。

こうして「さっぽろがん哲」は今年から心機一転、茶話会主体で運営するというカフェの原点に従った活動を始めました。初心忘るべからずと言いますが、「さっぽろがん哲」は三年目にしてようやく初心を持つことが出来ました。

**“どあらっこ” メディカル・カフェ**

メディカルカフェ代表 彦田 栄和

**～中学生 がんを癒やす～**

中日新聞 夕刊 2017年2月9日



がん患者や家族たちの対話の場を開設する(左から)彦田栄和さん、中村航大さん、弓削智輔さん  
＝名古屋市瑞穂区のみずほ在宅支援クリニックで

**同じ悩み相談する場を**



今年の2月11日に名古屋で第1回「どあらっこ」メディカルカフェを開催しました。始まりは昨年11月。代表の中村航大君が自分の病気(脳腫瘍)の事を樋野興夫先生に話し、「全国で中学生がやっている例はないから、立ち上げてみてはどうですか」と誘っていただいたところからです。

「全国初！中学生が立ち上げるメディカルカフェ」という事で、中日新聞やNHKの方が取材に来てくださいました。僕たちは、中学生がメディカルカフェを立ち上げる意義を、“一般の大人の方が開いているメディカルカフェ以上に、僕たちと同世代の人を巻き込んでいく事”だと考えています。

たくさんの方が参加して下さった時のカフェの進め方や、中高生にどう呼びかけるかなど、今は課題がいっぱいです。しかし、次回の5月28日の会ではより多くの中高生を巻き込んでいきたいと考えています。

カフェの名前についてですが、「どあらっこ」は中日ドラゴンズの「ドアラ」からきています。1984年、初めて日本にコアラがやってきた場所こそが愛知県東山動物園です。というのも、名古屋市とコアラパークで有名なシドニーとは姉妹都市関係にあり、このご縁がきっかけでコアラが日本にやってきたのです。

このような背景からドアラはコアラをモチーフにしています。日本とシドニーをつないだコアラのように、ガン患者である子供や、ガン患者を親に持つ子供の架け橋になりたいと思う今日この頃です。

**がん患者、休職中！**

花一輪カフェ主宰 上田 由起子

がんになると、がんを翻弄され、生活全てががんとなってしまうのではないのでしょうか。ネットには情報が溢れ、正しい選択を迷い、落ち込む原因となることもあるでしょう。情報選択により、進んでいく道が全く変わってしまうようなことも耳にします。不安でいっぱいになるでしょう。

しかし、良い仲間、良い情報と巡り合うことで不安は小さくなります。私自身がんになり、身近にいる医師である夫のおかげで不安は小さく済んだこととします。そんな自分のおかれた環境の中でご縁あって知り合う皆さんに、後悔のない選択をしていただけるような情報提供をし助言することは私の使命と思っております。

がんになると兎角視野が狭くなるように思いますが、周りへの愛を忘れてはならないと思います。花一輪にも虫や木々にも命があり、人も地球の中で生かされているのだと気づきます。東北の3.11の事も忘れてはならないと思います。カフェでは東北復興ソング「花は咲く」を歌い思いを寄せ、会を始めます。誰でも自分のがんを許容できるまで時間はかかりますが、身体の中のがん細胞諸共自分と受け止め、気持ちが元気なら「がん患者、休職中！」。そう思える愛あふれるカフェでありたいと思います。

がん哲学外来研修センター (佐久市前山 321-3)

mail : kenkokobo@hb.tp1.jp

(編集発行責任者：星野 昭江)